

会議名	人材育成・活用システム設計部会（令和３年度第１回）		
日 時	令和３年６月４日（金）10:30～12:00		
場 所	オンライン（Zoom ミーティング）		
出席者（計１５名，委員８名，事務局７名，敬称略）：			
カテゴリ	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
産	一般社団法人近畿建設協会	理事・技師長	◎黒谷 努
産	一般社団法人建設コンサル タnts協会近畿支部	参与	田底 成智
官	京都府北部社会基盤メンテナ ンス推進協議会	副会長	西村 祥一
学（代）	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教 育センター長	○玉田 和也
学（代）	舞鶴工業高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス 教育センター副センター長	毛利 聡
学（連）	福島工業高等専門学校	准教授	江本 久雄
学（連）	長岡工業高等専門学校	教授	井林 康
学（連）	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵
事務局	福島工業高等専門学校	特命助教	浅野 貴元
事務局	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義
事務局	長岡工業高等専門学校	特命助教	丸山 聡
事務局	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川 清剛
事務局	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教 育センター副センター長	入江 正樹
◎：部会長 ○：副部会長			
議事次第			
１．はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也			
２．部会長挨拶 一般社団法人近畿建設協会理事・技師長 黒谷 努			
３．新組織の設立にむけて（審議）			
４．まとめ			
５．その他（今後の予定，事務連絡等）			
			以上



写真1 黒谷部会長挨拶



写真2 玉田副部会長（事業責任者）挨拶



写真3 Zoom ミーティング画面

人材育成・活用システム設計部会（令和3年度第1回）議事録

日 時：令和3年6月4日（金）10:30～12:00

場 所：オンライン（Zoom ミーティング）

1. はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也
2. 部会長挨拶 一般社団法人近畿建設協会理事・技師長 黒谷 努
3. 新組織の設立にむけて（審議）

位置づけ・体制等について

- ✓ REIM産学連携コンソーシアムの発展的組織として、官を巻き込んだ産学官による財団法人の設置を推進していく。
- ✓ 広域を所管する地方公共団体の職員は、人事異動で継続的に参加できなくなる場合があり、官の関与の仕方について解決が必要な問題もある。

- ✓ 当該財団の機能維持に必要な経費，事業運営費，収入見込み等の資金繰り含め事業内容を具体的に検討し，実体がしっかりした組織とする。
- ✓ 当該財団は舞鶴高専内に置く方向で検討するが，国有財産の中に設置することについて国立高専機構本部との調整が必要である。
- ✓ 連携高専を増やすのと並行して，各高専所在地の地域づくり協会等へ寄附を呼び掛ける。
- ✓ 個人・企業による個別の寄附の受け皿として，クラウドファンディングも検討する。
- ✓ 連携高専は，将来的に社会基盤メンテナンス教育センターを設立する方向で勧めるのが望ましい。

高専への支援について

- ✓ 当該財団においてeラーニング（システム・コンテンツ）を管理し，連携高専の講習会対応や学生向けコンテンツの提供を行う。
- ✓ 学生向けコンテンツの提供は高専機構全体のメリットとなる部分である。
- ✓ 全国展開として，北海道と九州の高専でも社会基盤メンテナンス教育センターを立上げたいところであり，必要に応じて伴走支援を実施する。

技術支援について

- ✓ 当該財団の技術支援は，各高専から人的資源の面で協力を得て実施する。
- ✓ 全国の高専インフラ・教員を活用し，既存の公益事業等でカバーされていない技術支援，特に，小規模な自治体を対象とした技術支援を行いたい。
- ✓ 自治体支援は各協会でも実施しているが，橋梁維持管理については自治体から相談を受けても専門技術者が少なく対応しきれないため，寄附者として当該財団に寄附し，その見返りとして高専の教員が技術支援を行うことならば筋が通る。
- ✓ 各地域づくり協会等の関与の仕方については，各高専から個別アプローチして意向を伺う必要がある。
- ✓ 当該財団による専門家派遣のメニュー（被災橋梁の臨時調査，自治体職員研修，調査団派遣等）を明らかにしていきたい。
- ✓ 建設業協会は構成員や考え方には地域特性がある。人を育てる取組は担い手不足問題に有効だが，リカレント教育のニーズや規模は地域による。
- ✓ 小中学生を対象とした啓発・啓蒙活動や工業高校への支援等，建設業の担い手確保に繋がる事業は，多方面から賛同を得る上で有効である。

4. まとめ

- ✓ 黒谷部会長より取りまとめを行い，議論の内容を合同部会で報告する。

5. その他（今後の予定，事務連絡等）

以上